

<https://www.youtube.com/watch?v=CFEL2JXs280>

律令制王都の誕生と須恵器坏Bの出現

— 中央官僚の母体は太宰府 —

古賀達也 (古田史学の会)
令和5年(2023) 4月21日

YouTube講演は、表題をクリックして、ご覧ください

最初の五分強の音声は、古田史学会関西例会での音声です。

全体の音声は、多元的古代研究会の音声です。

七～八世紀の王宮平面図



大殿
— 大門 (船門) —
庁 (朝堂) 庁 (朝堂)
宮門 (南門)

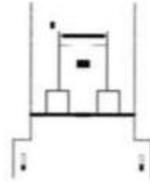
小墾田宮模式宮 (603-655)



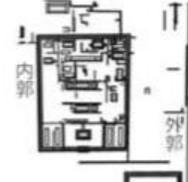
前期難波宮 (長柄豊碓宮) (652-686)



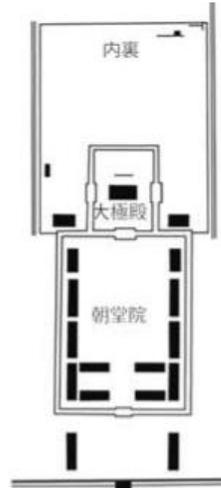
後飛鳥岡本宮 (7世紀後半)



大津宮 (667-672)



エビノコ郭
飛鳥浄御原宮 (7世紀後半)



藤原宮 (694-710)

大宰府政庁Ⅱ期

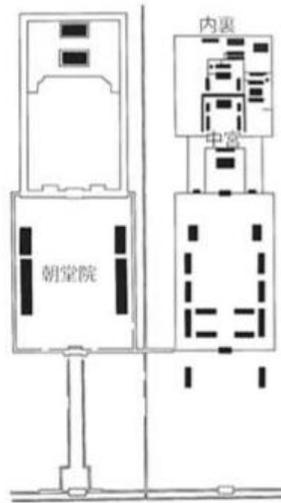
前期難波宮

後飛鳥岡本宮

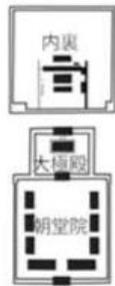
近江大津宮

飛鳥浄御原宮

藤原宮



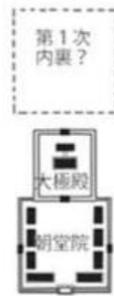
平城宮Ⅰ (8世紀前半)



後期難波宮 (723-784)



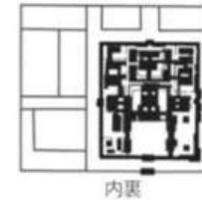
平城宮Ⅱ (8世紀後半)



長岡宮 (784-794)



平安宮 (794-?)



平安宮 (794-?)

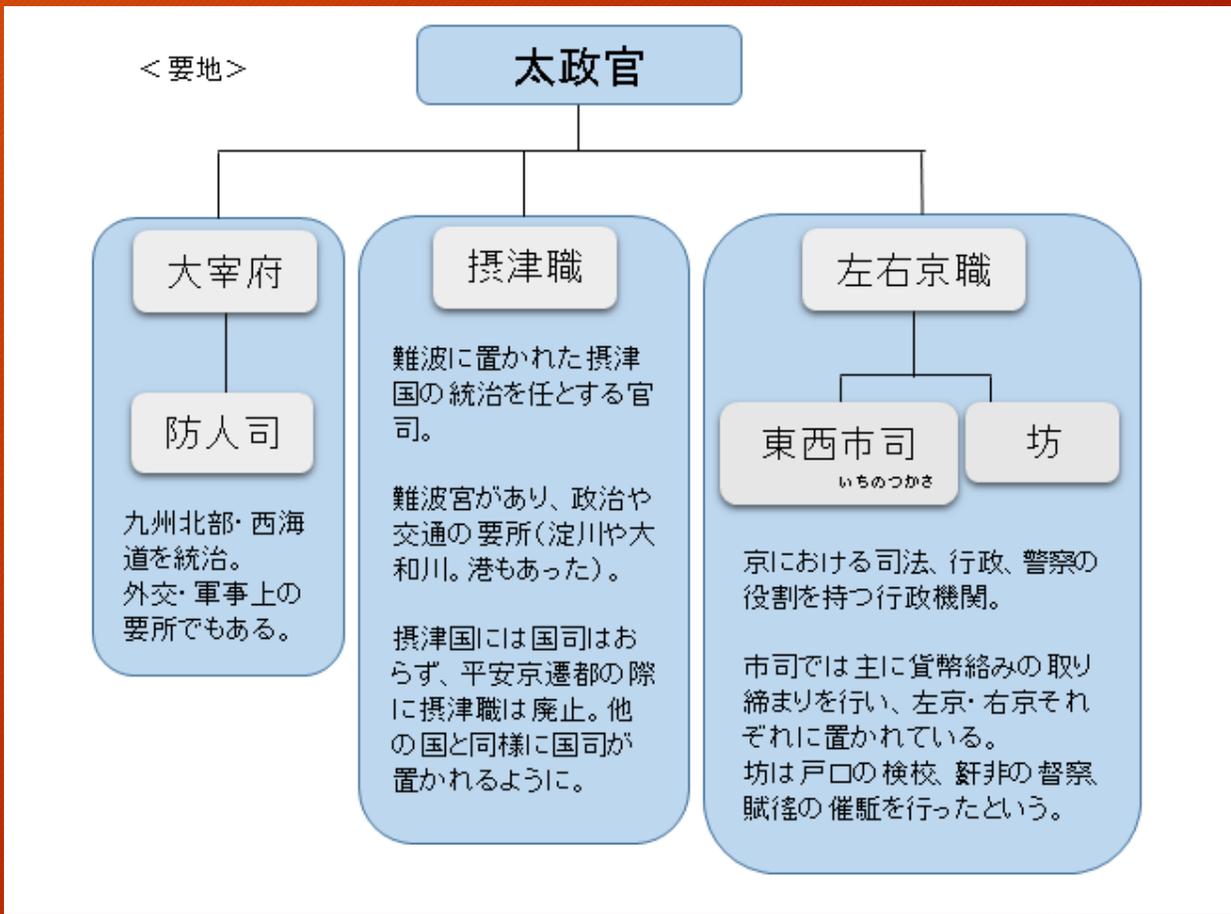
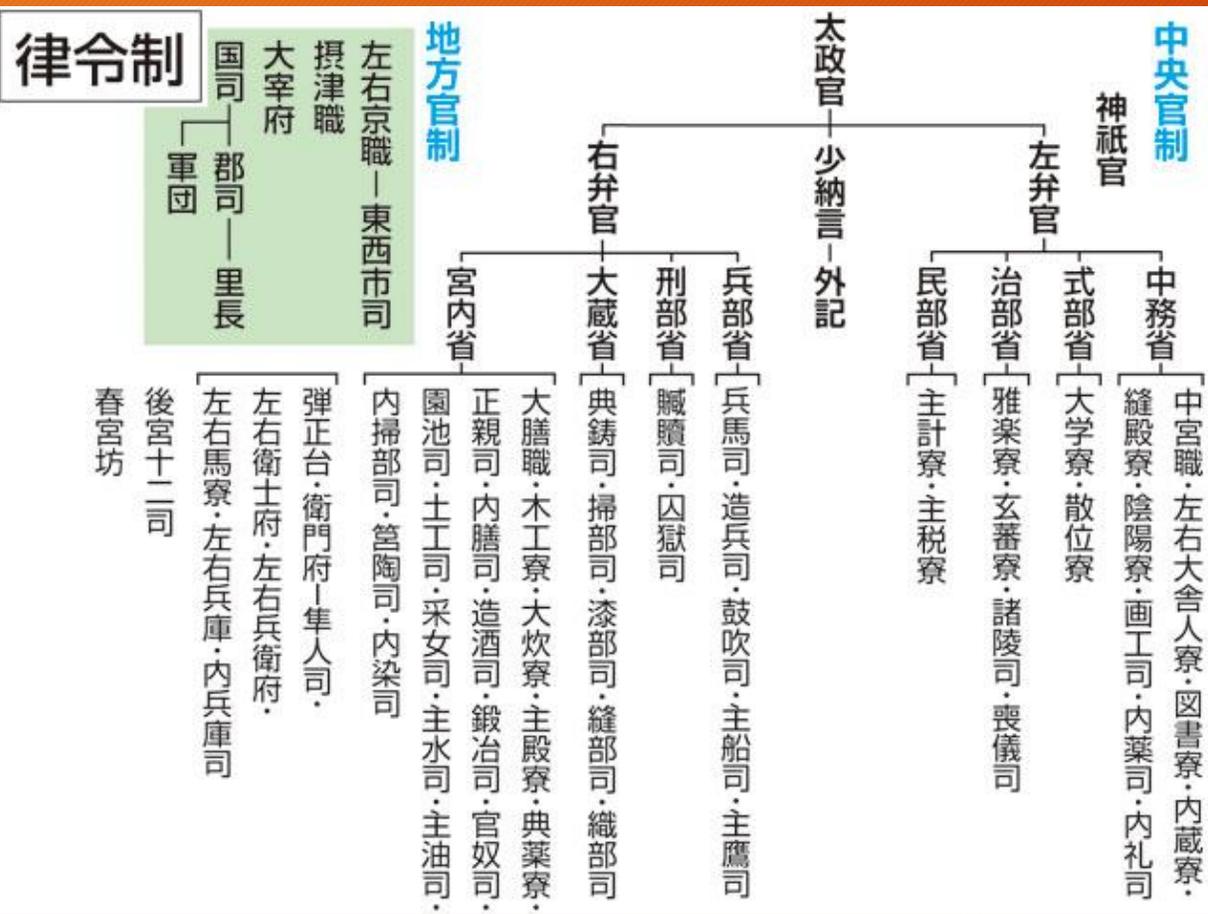
0 200m

第11図 古代宮都の変遷図

七世紀、律令制王都の絶対条件

- 《条件1》 **八千人**の官僚が執務できる**官衙**の存在。
- 《条件2》 官僚群と家族、商工業者、首都防衛の兵士ら**数万人**が居住できる**巨大条坊都市**の存在。
- 《条件3》 **数万人**の人口を養える**食糧**の確保。
- 《条件4》 食料や必要物資流通のための都を中心とする**官道(陸路・水路)**の存在。
- 《条件5》 都を防衛するための関や羅城などの**防衛施設**や地勢的有利性の存在。

『養老律令』によれば大和朝廷は西海道(九州)に**大宰府**を置き、**間接統治**した。
 難波京には**摂津職**を置き、**特別統治**した。
 それはなぜか。 両者は九州王朝の**都**だったから。
 そして、自らの**都**には**左右京職**を置いて統治した。



【飛鳥藤原出土の評制下荷札木簡】

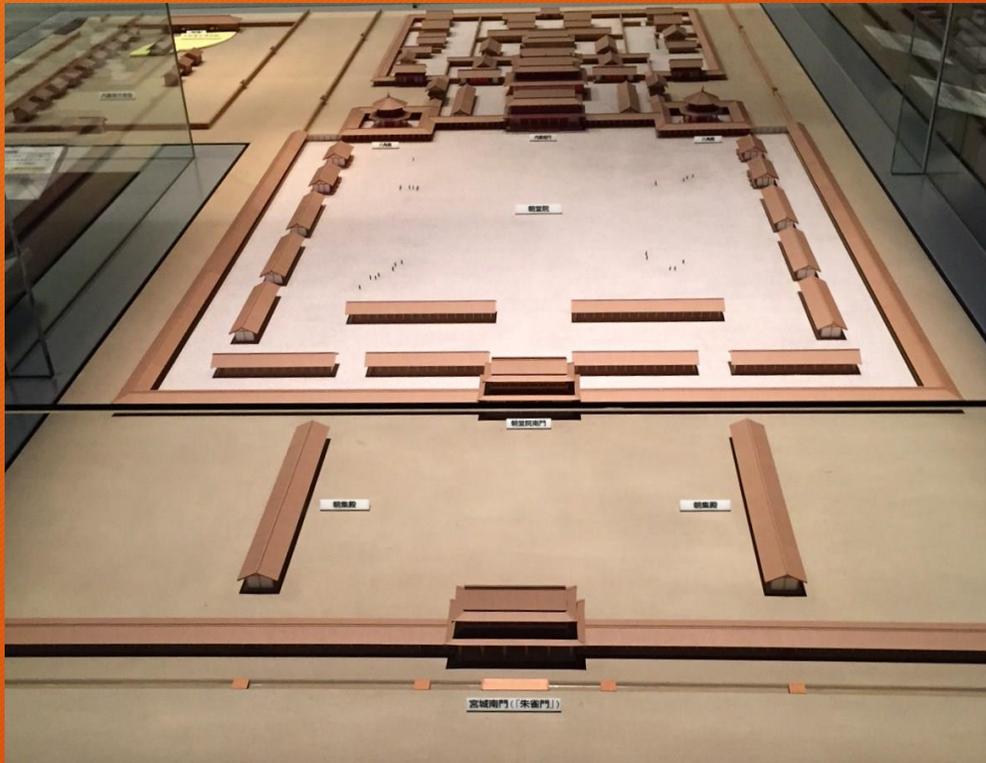
国名	飛鳥宮	藤原宮(京)	小計
山城国	1	1	2
大和国	0	1	1
河内国	0	4	4
摂津国	0	1	1
伊賀国	1	0	1
伊勢国	6	1	7
志摩国	1	1	2
尾張国	9	8	17
参河国	20	3	23
遠江国	1	2	3
駿河国	1	2	3
伊豆国	2	0	2
武蔵国	3	2	5
安房国	0	1	1
下総国	0	1	1
近江国	8	1	9
美濃国	18	4	22
信濃国	0	1	1
上野国	2	3	5
下野国	1	2	3

若狭国	5	18	23
越前国	2	0	2
越中国	2	0	2
丹波国	5	2	7
丹後国	3	8	11
但馬国	0	2	2
因幡国	1	0	1
伯耆国	0	1	1
出雲国	0	4	4
隠岐国	11	21	32
播磨国	6	6	12
備前国	0	2	2
備中国	7	6	13
備後国	2	0	2
周防国	0	2	2
紀伊国	1	0	1
阿波国	1	2	3
讃岐国	2	1	3
伊予国	6	2	8
土佐国	1	0	1
不明	98	7	105
合計	227	123	350

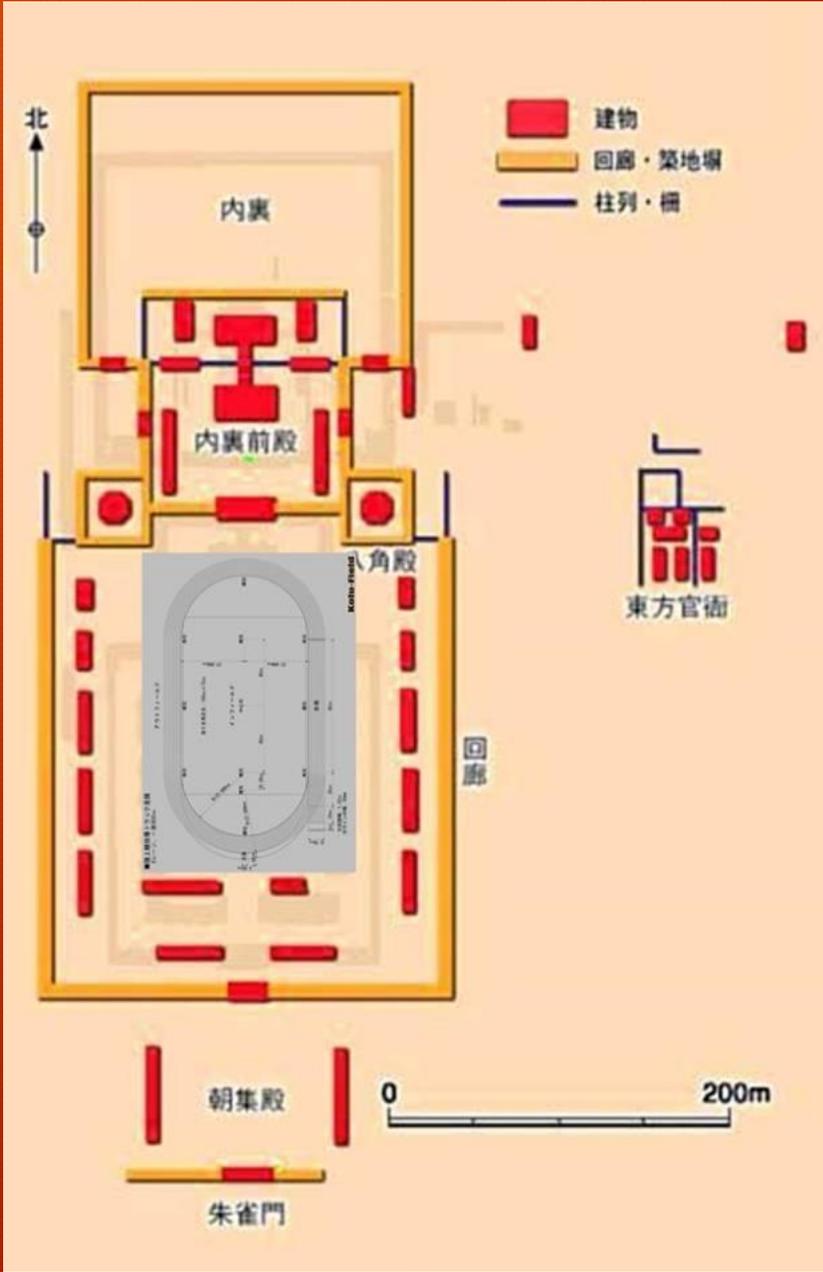
飛鳥宮・藤原宮 7世紀の統治領域 —荷札木簡の証言—

九州の空白の謎

市 大樹『飛鳥藤原木簡の研究』
(塙書房、2010年)所収「飛鳥藤原
出土の評制下荷札木簡」による。



前期難波宮 六五二年
(九州年号白雉元年) 創建。
六八六年に焼亡し、同年
七月に朱鳥元年と改元。





狭山池堤体の断面

東樋に使用された木材の伐採が**616年**（**定居**六年、推古24年）と年輪年代測定で判定された。堤体の盛り土が幾層にも積まれ、その1部に植物層を含む層があることが判明し、**水城**と同じ敷葉工法（しきはこうほう/葉のついた枝を土留めに使う工法）が用いられていることがわかった。

狭山池は、大阪狭山市にある日本最古のダム式ため池。

狭山池



宮殿跡は検出したが、官衙や朝堂は未調査。律令制中央官僚と家族ら数万人が居住できる大規模条坊都市の造営可能なスペースが近隣にはない。



近江大津宮 復元模型

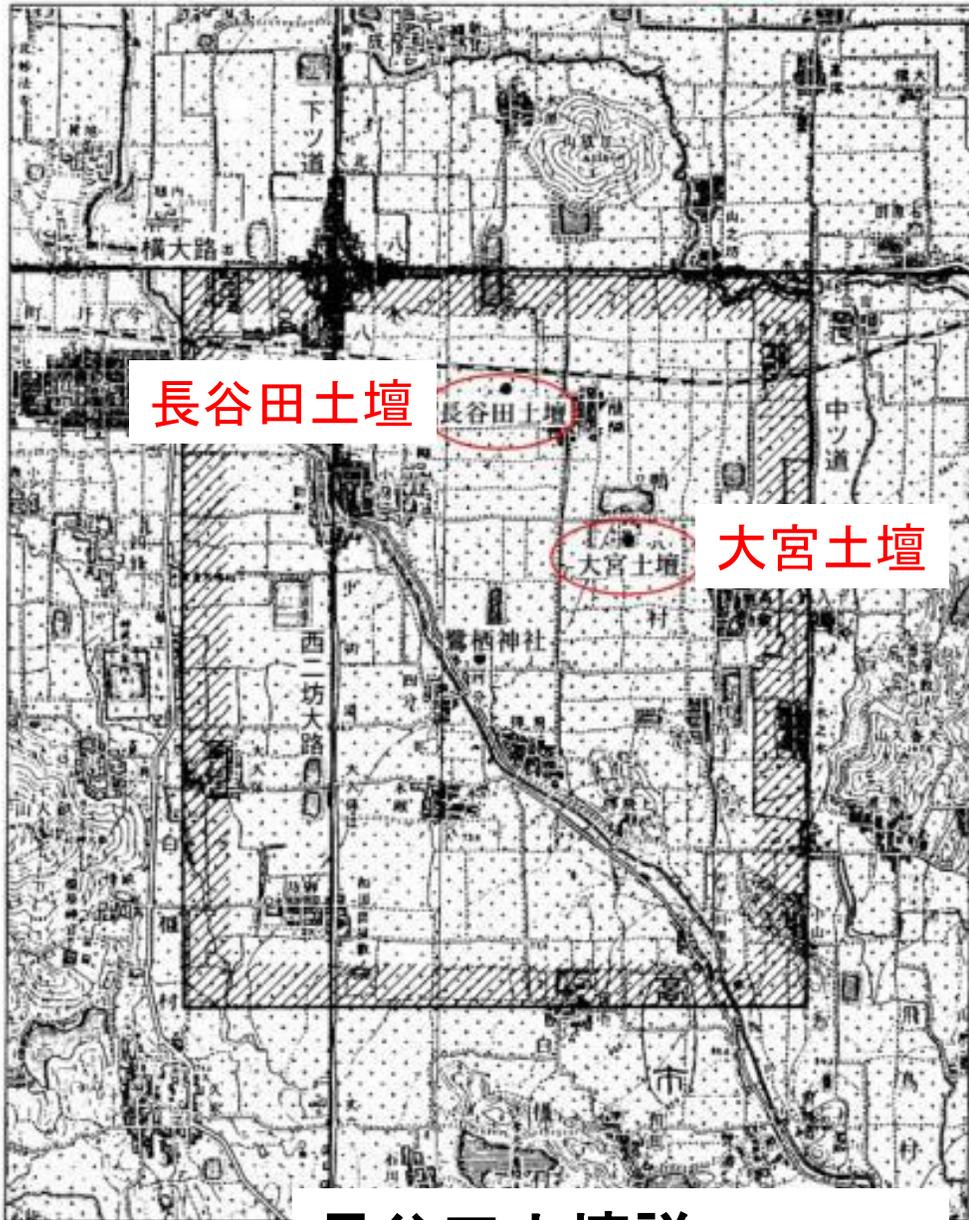


近江京 想像図

白鳳元年(六六一年)に遷都
『海東諸国紀』による

喜田貞吉復元藤原京域

○ 筆者記入



長谷田土壇

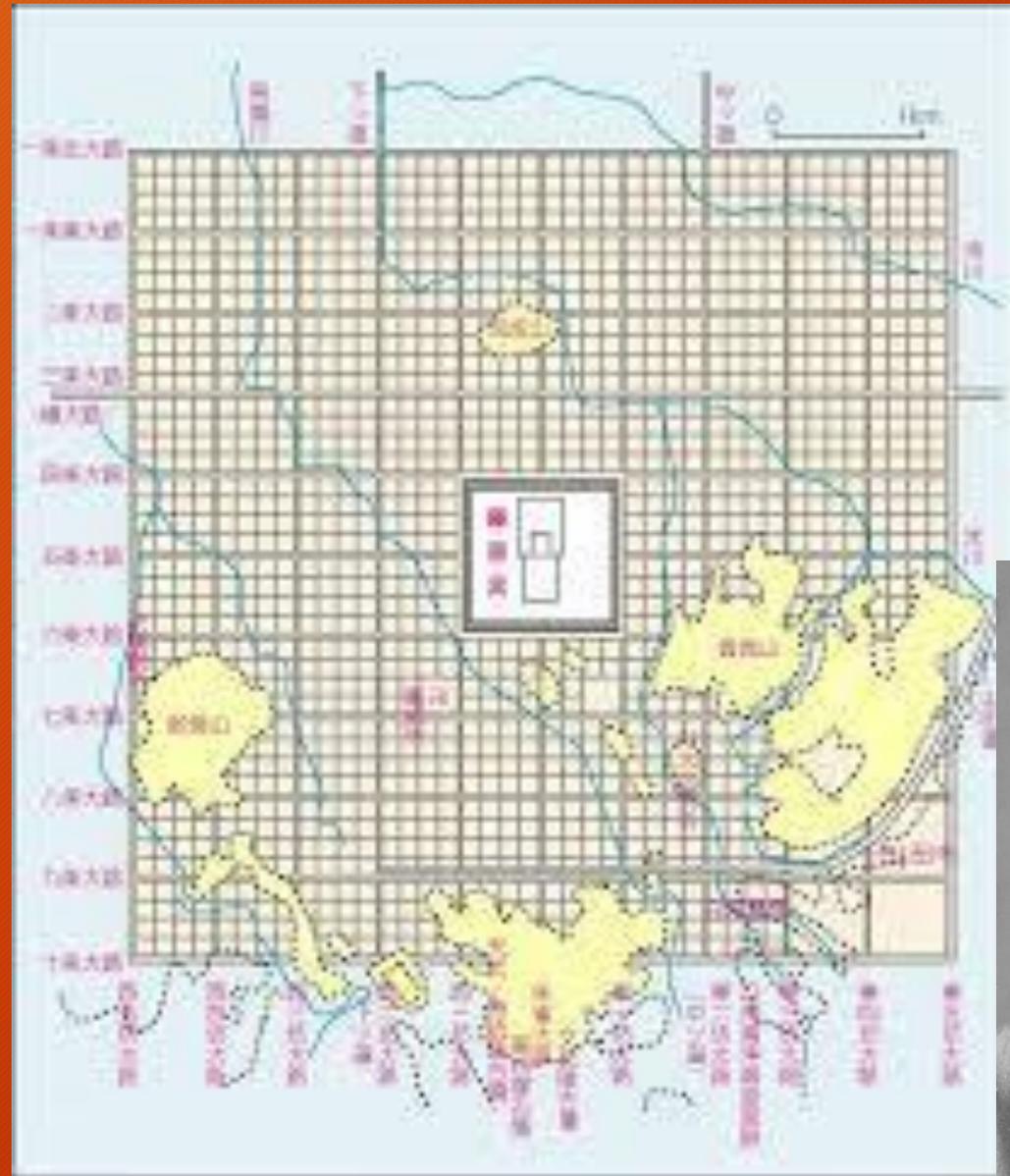
長谷田土壇

大宮土壇

大宮土壇

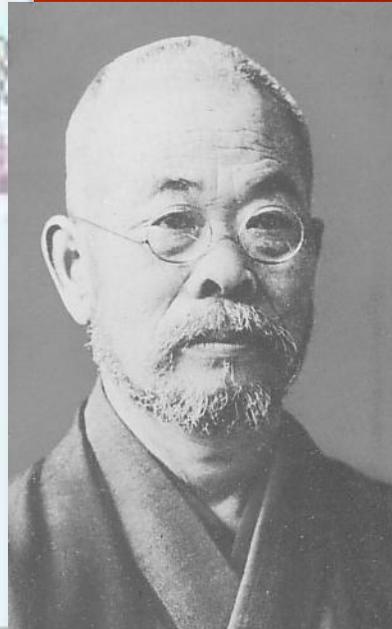
「藤原宮」飛鳥資料館より

長谷田土壇説(喜田貞吉)



現在の定説 大宮土壇説

二つの
藤原京説



喜田貞吉
明治4年～昭和14年

絶対5条件から見た九州王朝王都候補の評価

(1)官衙 (2)都市 (3)食料 (4)官道 (5)防衛

太宰府 <small>(倭京)</small>	△	○	○	○	◎
難波京	◎	◎	○	○水運	◎
近江京	○	×	○	○水運	○
藤原京	◎	◎	○	○	◎
伊予「紫宸殿」	×	×	○	○水運	×

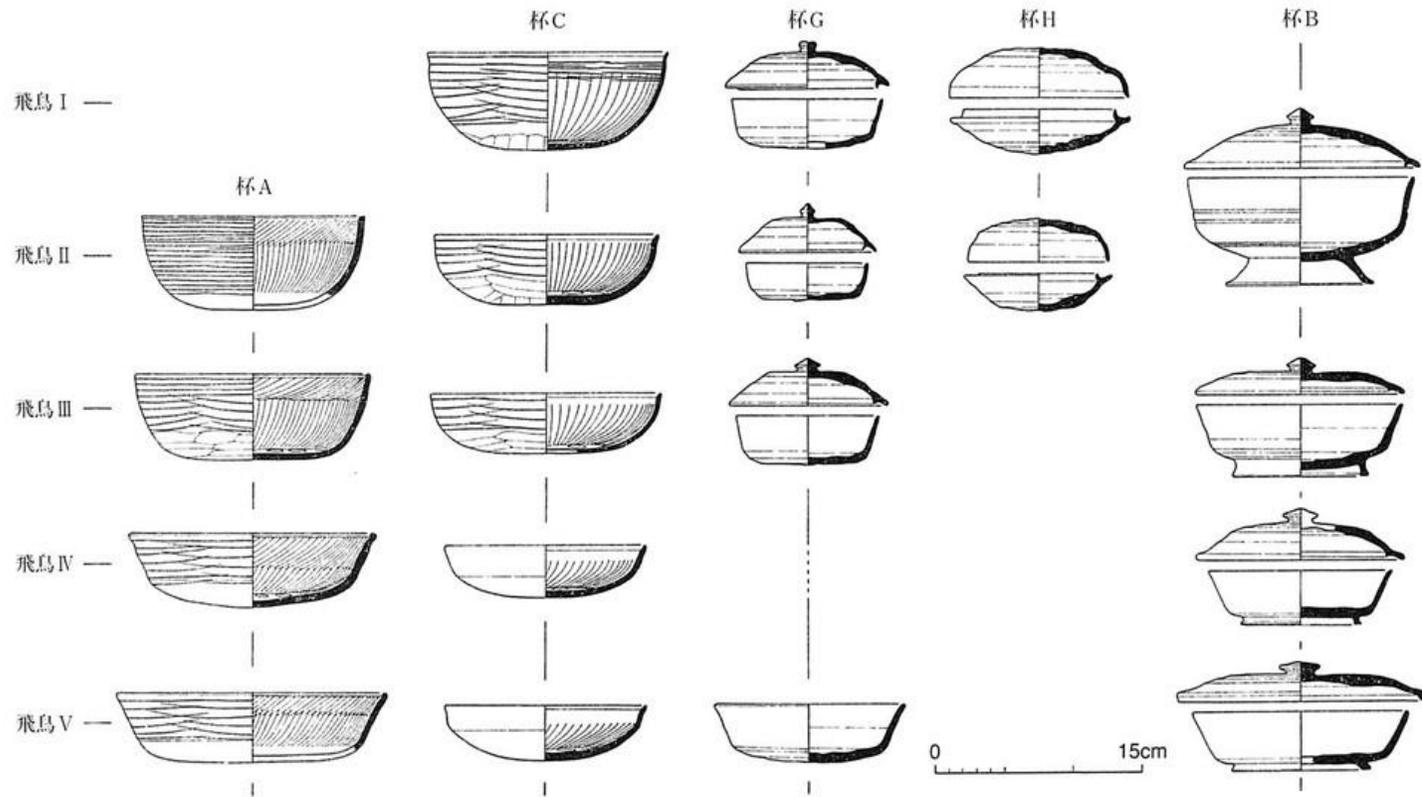


図3 飛鳥・藤原京における土器の編年

卓上に置いて使用する食器**杯B**の出現と、机上で執務する**律令制官僚群(文書官僚)**の発生時期が対応するのは偶然か。

七世紀における須恵器杯の変遷 H→G→B
従來說で、杯Gは7世紀中頃、**杯B**は同後葉頃の発生とされてきた。

杯H	杯G	杯B
古墳時代を代表する須恵器、7世紀後葉から徐々に姿を消す。	7世紀中頃に出現した新しい形式。	7世紀後葉'京I期古段階'に唐突的に現われた。中段階の実年代が明確であることから、その出現は670年以降。

(『『京から出土する土器の編年的研究』を基に作成)

牛頸窯跡群は太宰府の西側に位置し、九州王朝屈指の土器生産センター。操業は六世紀中ごろに始まり、当初は2～3基程度の小規模な生産だが、**六世紀末から七世紀初め**に窯の数は一気に急増し、七世紀前半にかけて継続する。

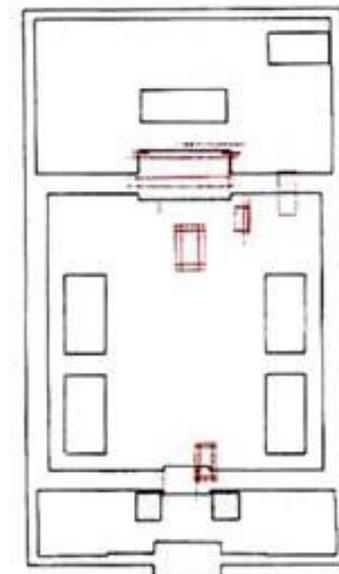
これは、太宰府条坊都市造営の開始期と考えられる七世紀初頭(**九州年号「倭京元年」618年**)頃に土器生産が急増したことを示しており、九州王朝の**太宰府建都**を示す考古学的痕跡である。

七世紀中頃になると牛頸での土器生産は減少する。**前期難波宮**造営に伴う工人(陶工)らの移動(**番匠**の発生)の結果と考えられる。消費財である土器の生産・供給の減少は人口の減少を意味し、これは太宰府の**官僚群が前期難波宮(難波京)へ移動**したことの痕跡であろう。

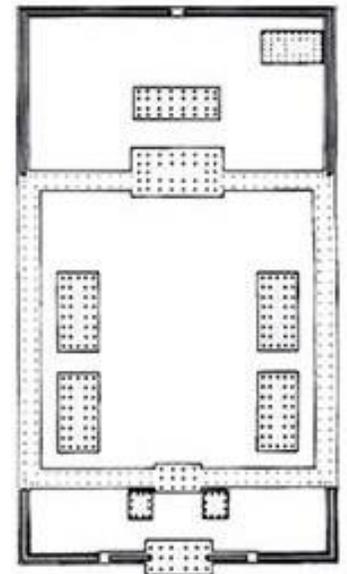
須恵器**坏B**が出現

650年頃造営

670年頃造営



I期

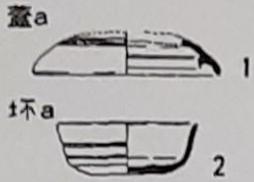


II期

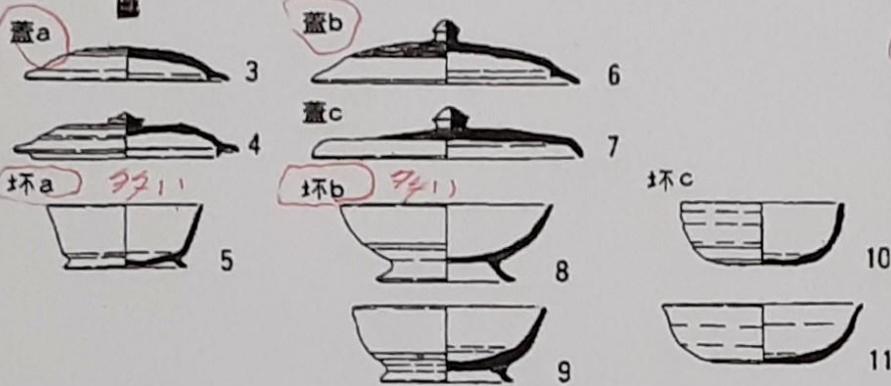
I 期 古段階整地層出土

No.	地区	遺構・土層	Fig.No.	No.	地区	遺構・土層	Fig.No.
1	北門	SA505	175-1	13	回廊東北隅	第2整地	194-30
2	門	SC022	167-3	14	"	"	195-46
3	廊東北隅	第2整地	194-11	15	北門	第1整地	176-11
4	"	"	194-19	16	"	"	176-12
5	中門	SB005	166-15	17	"	"	176-18
6	回廊東北隅	第2整地	194-25	18	"	"	176-17
7	"	"	194-41	19	回廊東北隅	第2整地	195-52
8	北門	第1整地	176-15	20	"	"	195-53
9	"	SA505	175-2	21	中門	SX015	168-11
10	回廊東北隅	第2整地	195-51	22	"	SX020	168-12
11	"	SB500	199-5	23	南門	SX008	162-14
12	"	"	194-35				

I a



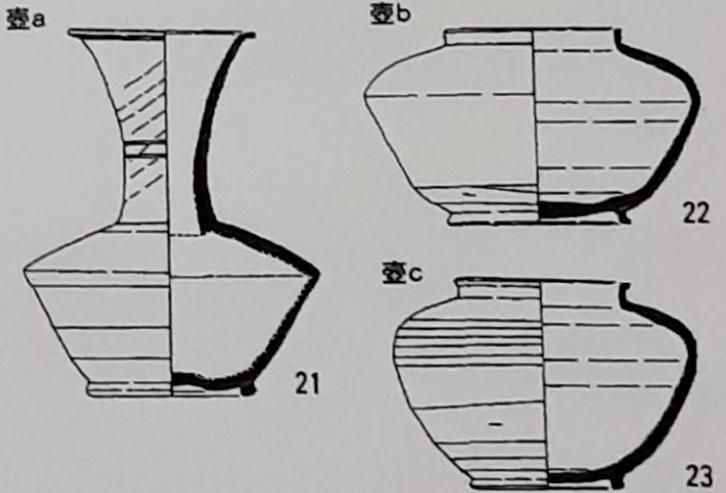
I b



II a



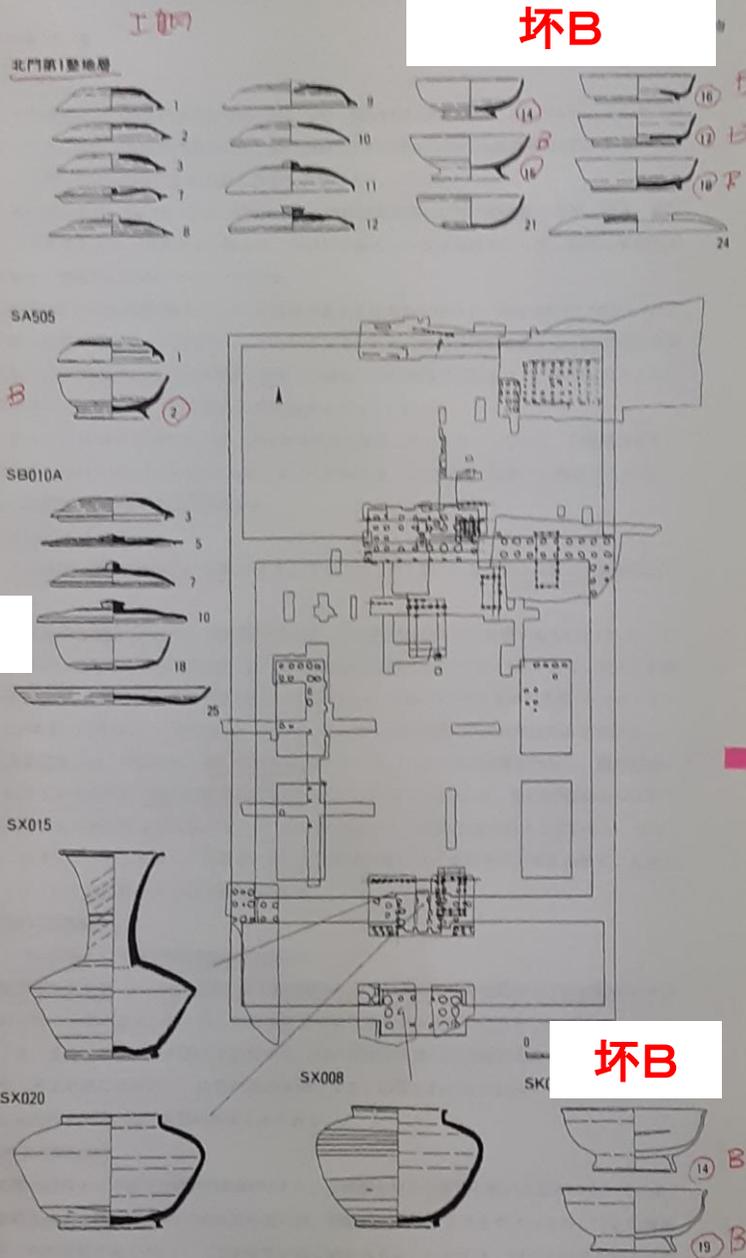
I 期 新段階整地層出土



II 期 整地層出土

大宰府政庁出土土器編年図

坏B

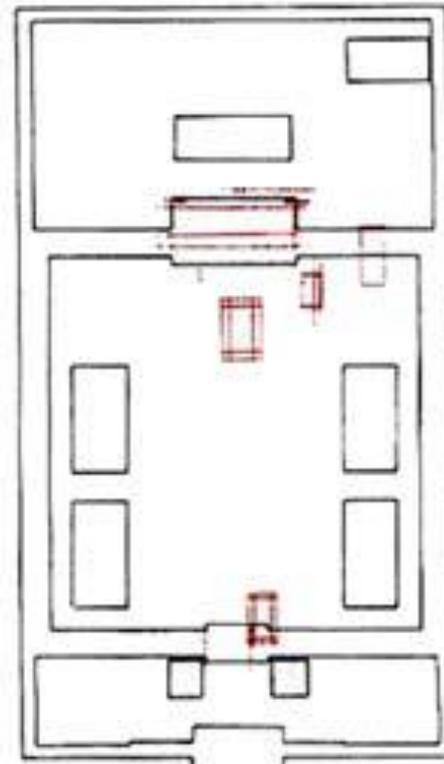


坏B

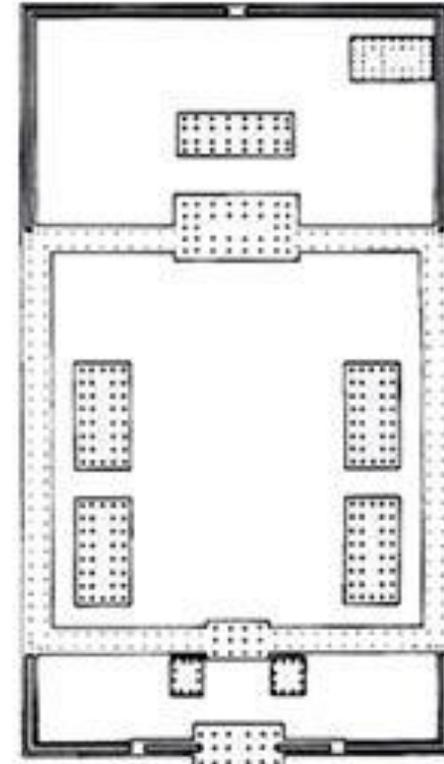
坏B

大宰府政庁 I 期新段階整地層から
坏Bが出土する。

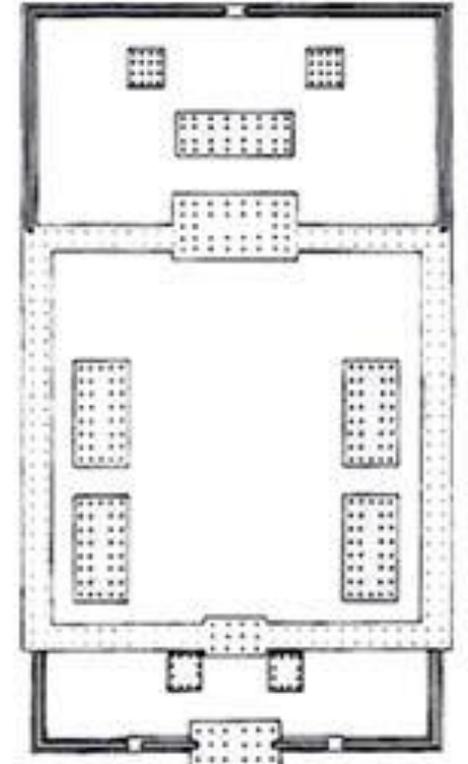
正木説では I 期新段階の造営を
650年頃とする。



I 期



II 期



III 期

大宰府政庁 I ~ II 期 主要遺構出土土器

第2表 遺跡出土遺物表

須恵器小田型式 奈文研坏分類				IIIA	IIIB	IV	V	VI	VII古	備考	
羅城	水城跡	5次	SX050.051			○	○	○	○		
	上大利小水城跡	2次	積土			○					
	池田遺跡土壘		補修土						○	地震痕跡	
	大土居水城跡	2次	積土下溝				○				
	前畑遺跡土壘	13次	第一層群 土壘表土		+	+					
山城	大野城跡	45次	明灰色砂層			+	+				
			トレンチ黄褐色砂層					○			
			白黄砂層			○					
			表土			○					
			I期城門上面					○			
	鞠智城跡	小石垣		表土			○	○			
		90-3区		5号建物跡			○				
		90-IV区		16号建物柱掘方			○				
		90-IV区		11号建物柱掘方				○			
	官衙・都市		20次	貯水池跡			○		○		
180次			SB122	○							
180次			SA111	○							
180次			I期古段階整地層	○							
180次			I期新段階整地層		+			○	土		
180次			SB120			+		○	○		
180次			SB121					○	○		
180次			SB123					○	○		
蔵司地区		65-1次		整地層		○	+				
		54.80次		整地層					○	+	II期
大宰府政庁前面域	17次		SK388					○			
	86次		SX2319			○					
	81次		SX2320			+	+	○			
	136-2次		SX4642			○					
	98次		SX2480				+	○			
	83.84次		SX2344			○		○			
84次		SX2416				+	+	○			
61次		SK1521			○		○				

坏B

「大宰府成立再論」山村信榮

大宰府成立再論

第1表 土器のセリエーションとフェイス

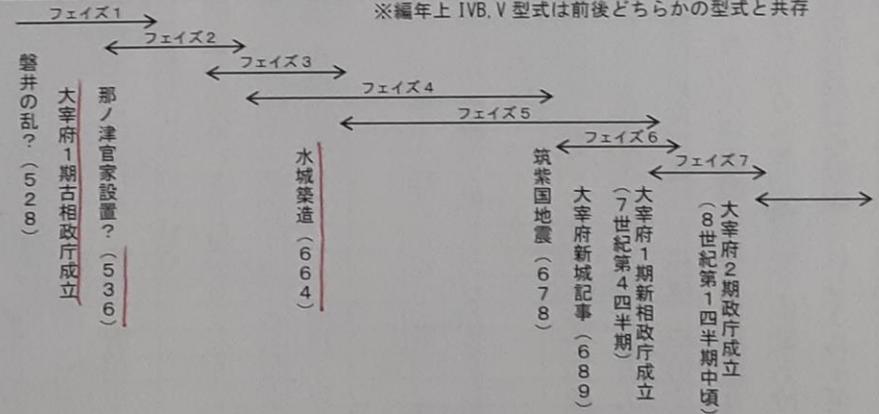
坏B



典型資料 / 須恵器坏形式	九州編年	IIIA	IIIB	IVA	IVB	V	VI	VII古	VII新	備考
	大宰府土器編年 奈文研分類			H	H	G	B	B	B	
政庁I期古段階		○	+							
野添6号窯跡		○	+							
野添9号窯跡		+	○	+						
神ノ前2号窯跡			+	○	+					初期瓦
月ノ浦1号窯跡 / 惣利西2号住居				○	○	○				初期瓦
小田浦窯跡群 79 地点 (1, 2 号窯)					+	+	○			
牛頭ハセムシ 12 地点 9 号窯							+	○		
政庁前面域 SD2340 中下層								+	○	

大宰府政庁跡

土器のセリエーション
と時間的段階 (フェイス)



従来説では、大宰府政庁 I 期の成立を坏B出土を根拠に、7世紀第4四半期とする。

前期難波宮内 裏北西部出土 水利施設の木 枠と石組水路

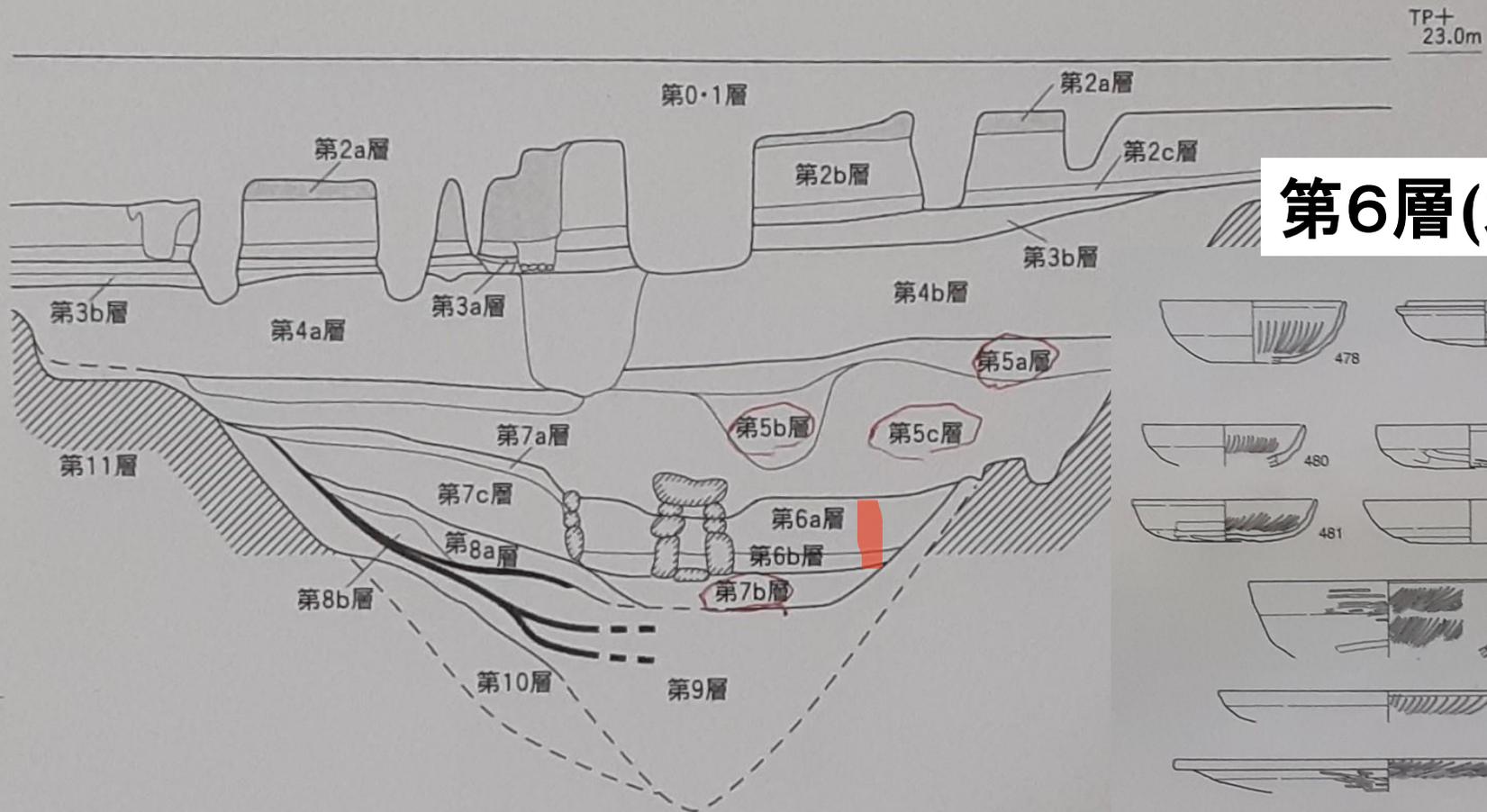


木枠(ヒノキ)の
年輪年代測定
により、伐採
年は**634年**と
判明した。

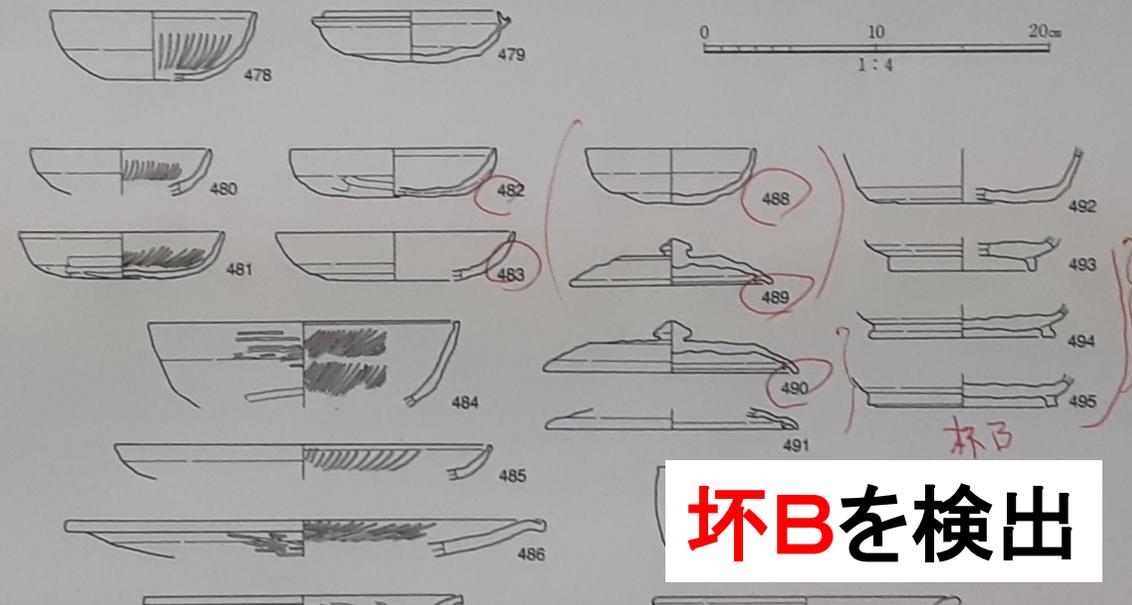


図1 前期難波宮全体図

水利施設出土土器により**前期難波宮造営が7世紀中頃(孝徳期)**と確定した



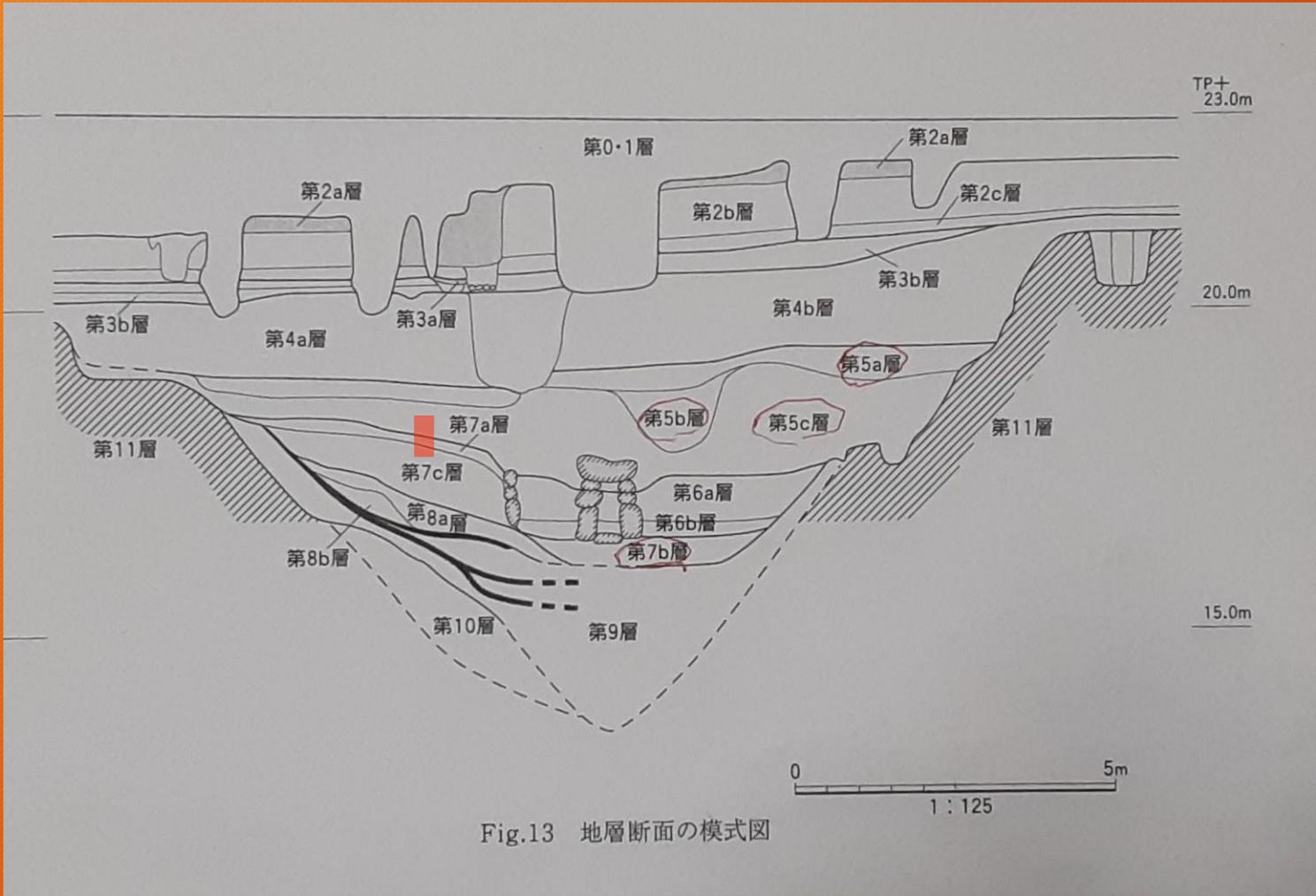
第6層(水利施設内部堆積層)



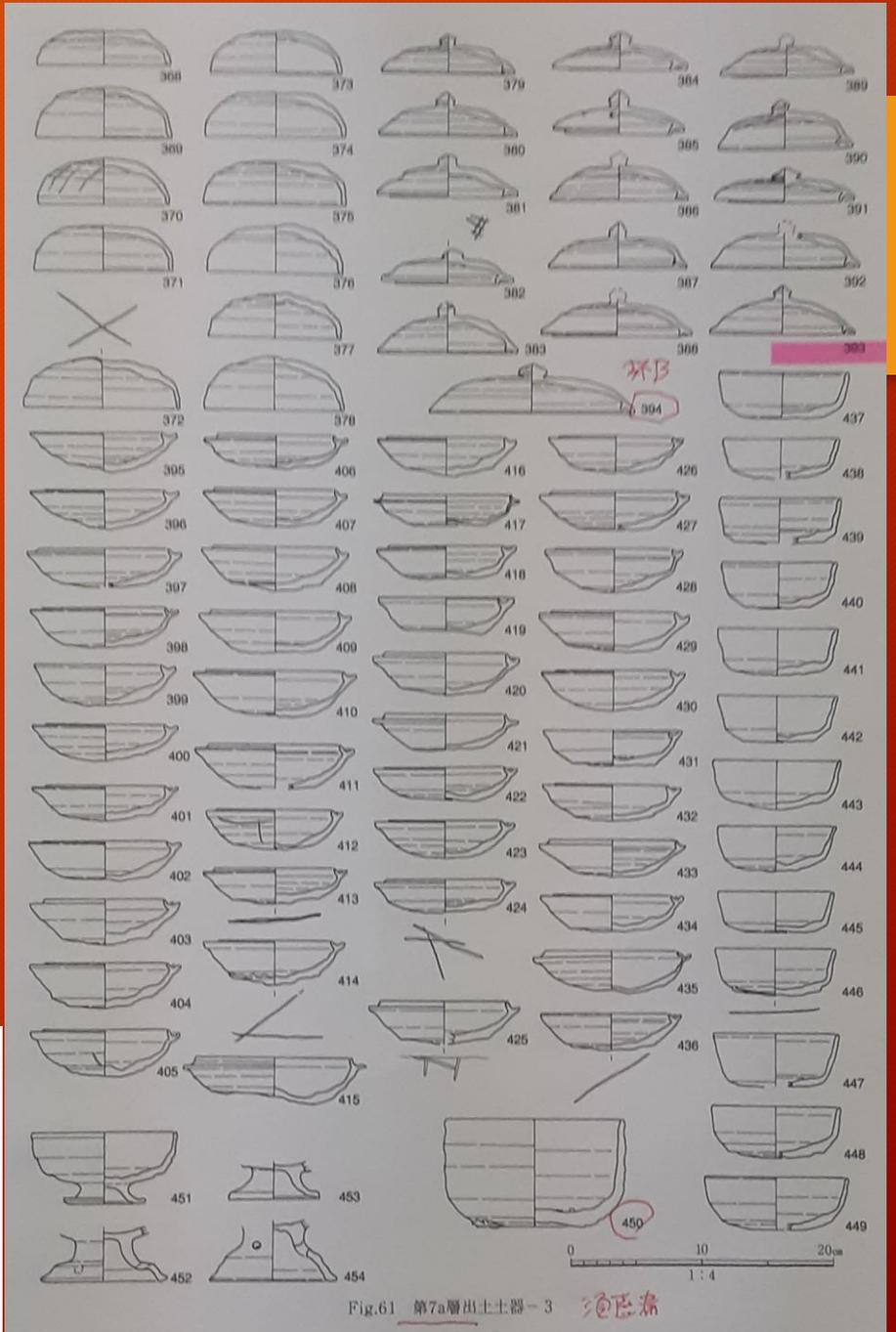
7世紀中葉から8世紀初頭と編年

Fig.13 地層断面の模式図

Fig.64 第6層出土土器
第6b層(478・479) 第6a層(480~497)



第7a層(蓋石を覆うための客土)
 坏Hと坏Gを検出。坏Bはない。
 7世紀中葉と編年



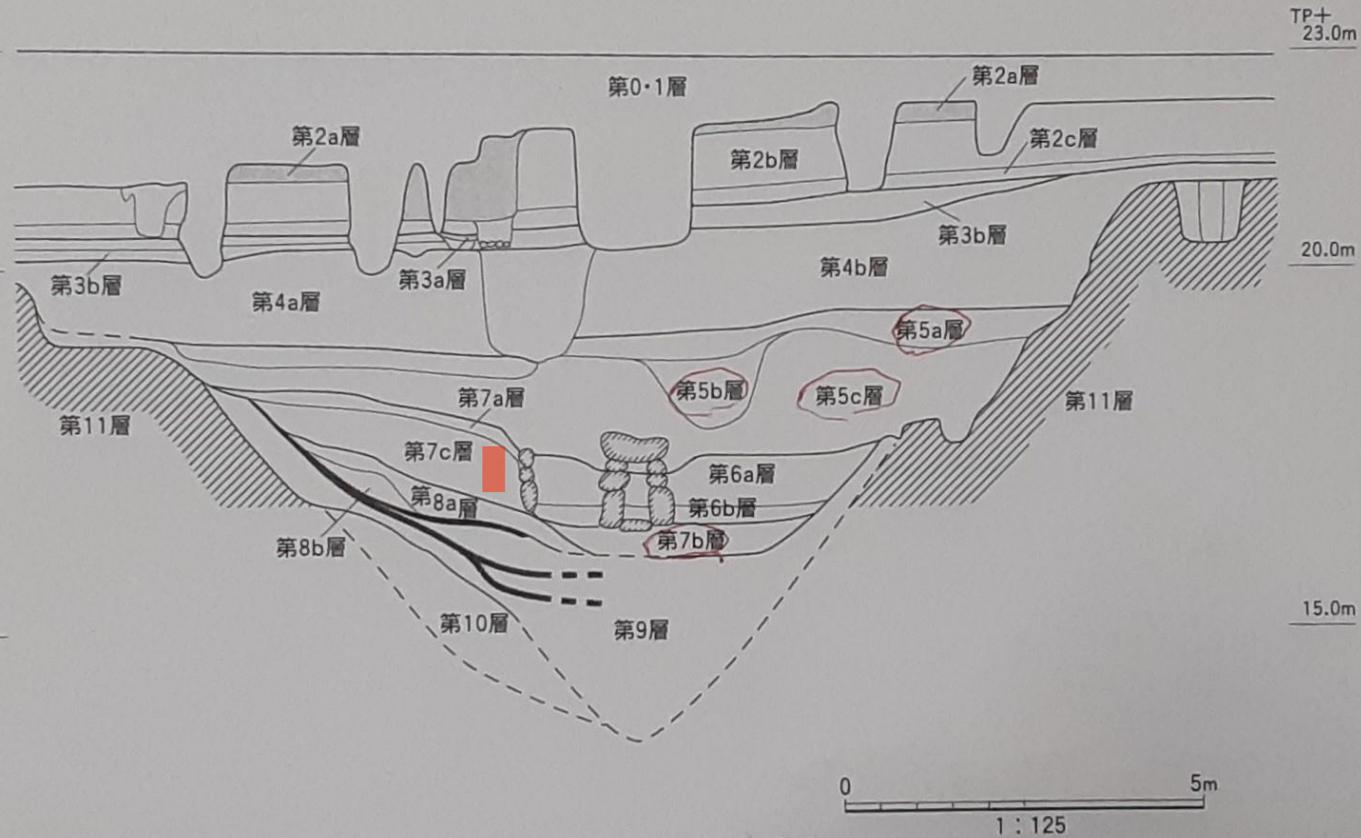


Fig.13 地層断面の模式図

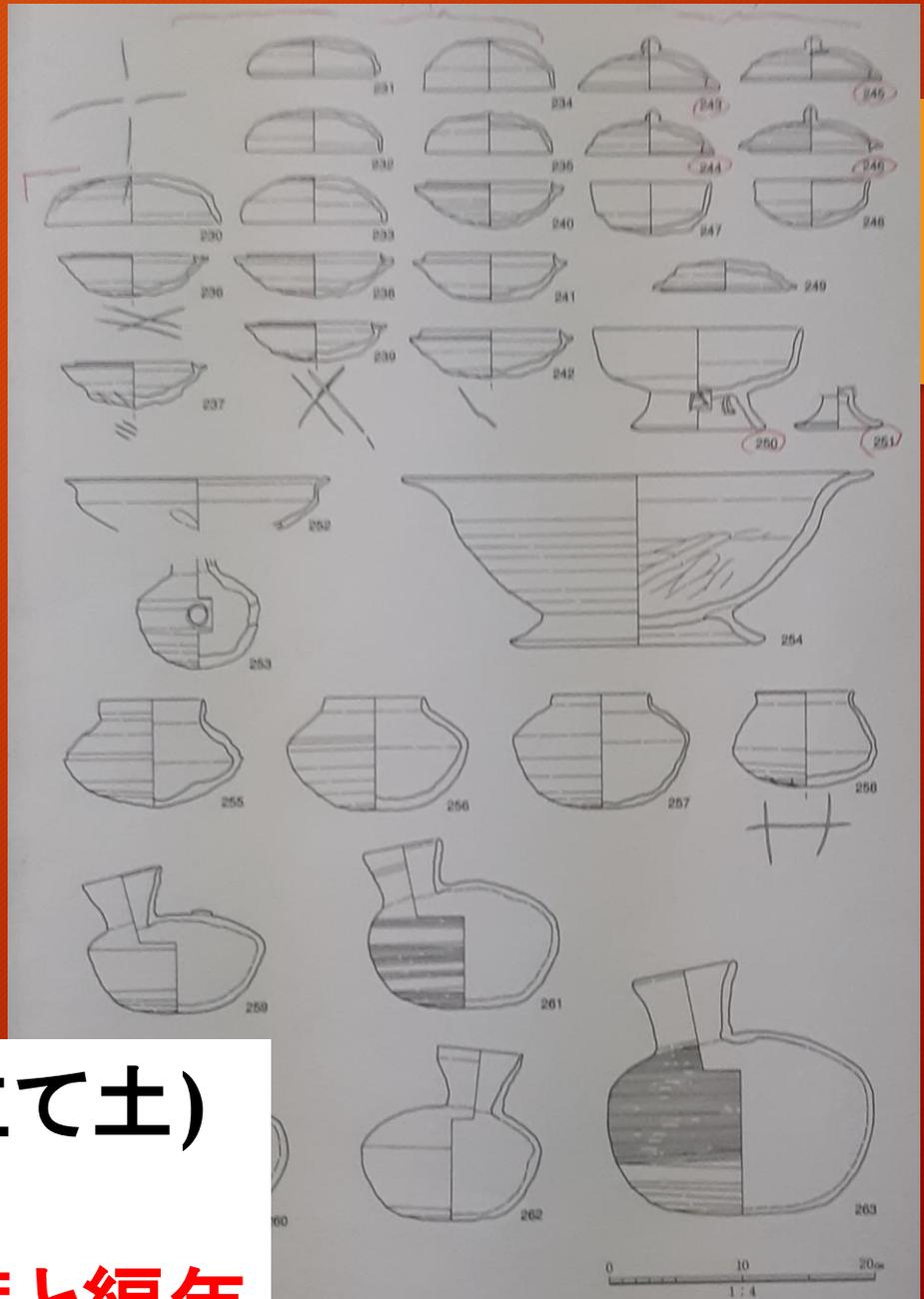


Fig.54 第7c層出土土器-3

第7c層(水利施設造営に先立つ埋立て土)
 坏Hと坏Gを検出。坏Bはない。

👉 7世紀中葉と編年



Fig.13 地層断面の模式図

第7b層(水利施設造営の**整地層**)
 坏Hと坏Gを検出。**坏B**はない。

👉7世紀中葉と編年

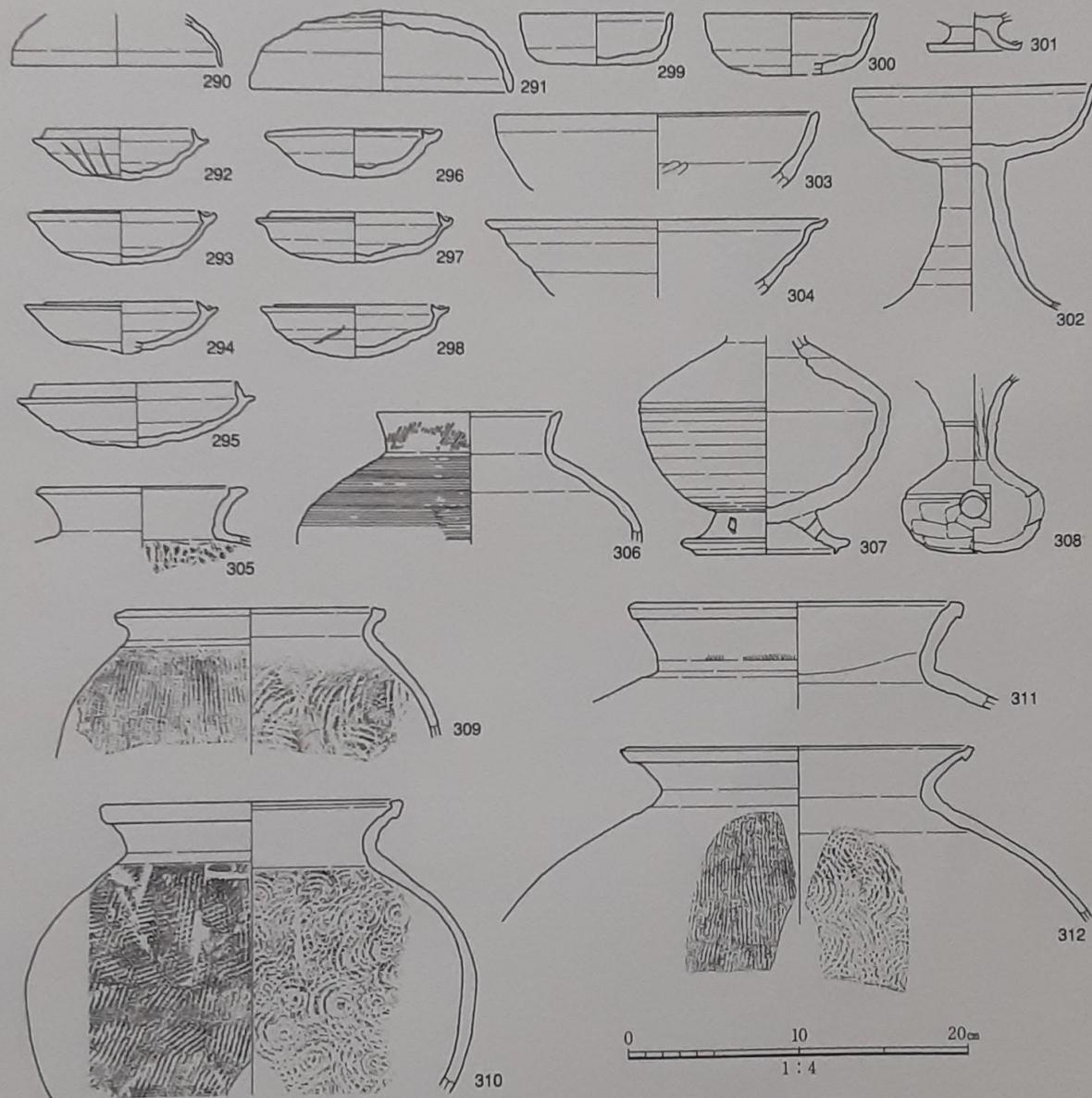


Fig.58 第7b層出土土器-2

須田啓



藤原京と飛鳥宮 模型

藤原宮整地層出土の主要土器は**坏B**

持統天皇八年
(694年)に
飛鳥宮から
藤原宮に遷都

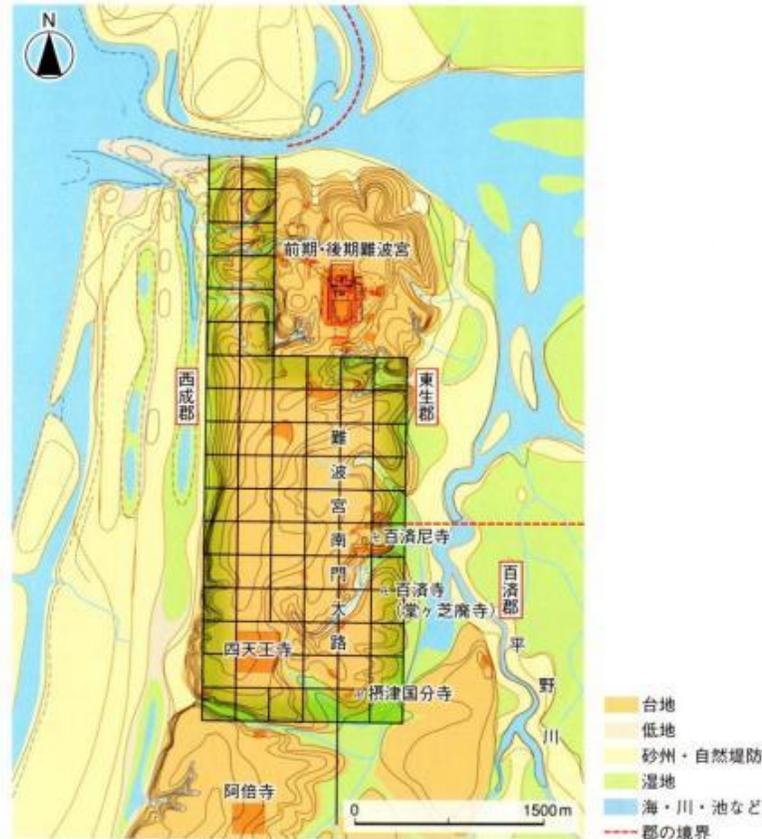
七世紀の条坊都市 と**坏B**の出現



大宰府政庁と条坊
618年(倭京元年)遷都
650年頃に**坏B**出現

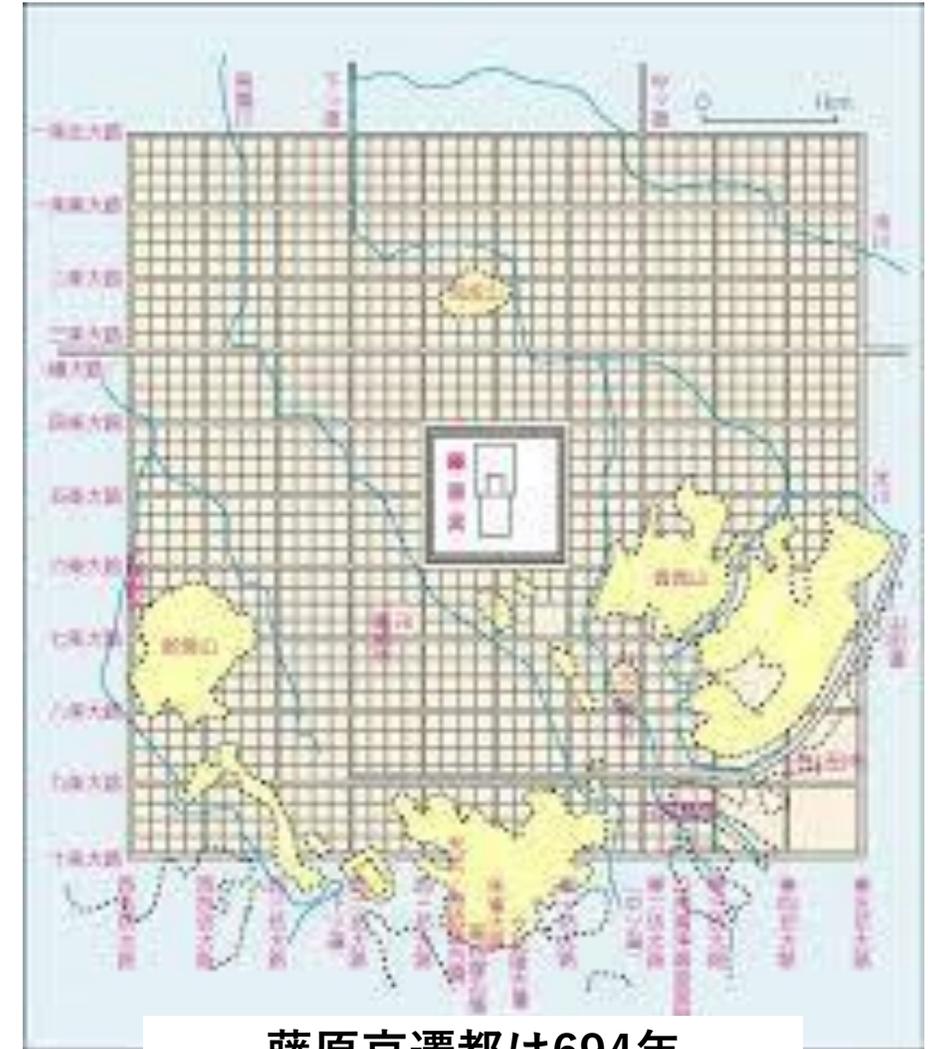
前期難波宮整地層から
坏Bは出土しない

前期難波宮と難波京
652年創建
7世紀中葉から**坏B**出現



●後期難波京の頃の上町台地復元図
最新の地理情報システム (GIS) に、過去の1000件を超える発掘調査のデータを入力して上町台地の旧地形が復元された。これに難波京復元案を重ねたのがこの図である。 (資料提供: 大阪府立歴史民俗学館)

(王宮 難波宮)

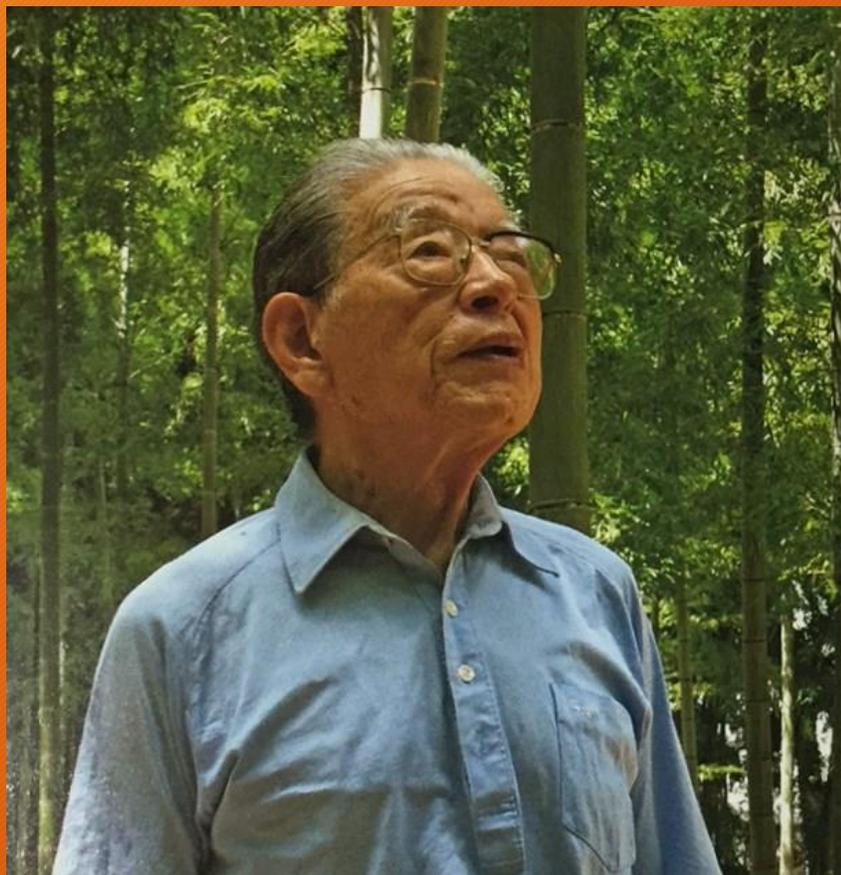


藤原京遷都は694年
7世紀第4四半期頃に**坏B**出現

八千人に及ぶ律令制官僚群の母体は大宰府(倭京)

九州王朝(倭国)の東方浸出の概要とエビデンス

- (1)「倭の五王」の時代(5世紀) 筑後(久留米市か)に王都を移す。古田武彦「筑後川の一線」
- (2)難波に東方浸出の拠点置く。上町台地に列島最大規模の倉庫群出土。
- (3)端政元年(589) 阿每多利思北孤(あまのたりしほこ)即位。『隋書』『大善寺玉垂宮縁起』
- (4)告貴元年(594) 全国に国府寺の建立を命じる。『聖徳太子伝』『日本書紀』
- (5)定居六年(616) 難波への食糧供給・増産のため、灌漑施設「狭山池」の造成開始。
- (6)倭京元年(618) 太宰府遷都 『聖徳太子伝』他。条坊都市の拡充発展。牛頸窯の急増。
- (7)倭京二年(619) 難波に天王寺を創建。『二中歴』、出土創建瓦の編年(620年頃)。
- (8)白雉元年(652) 前期難波宮(複都)創建、評制施行。『日本書紀』、前期難波宮出土。
- (9)白鳳元年(661) 近江大津宮へ遷都。『海東諸国紀』 ※正木説によれば「九州王朝系」勢力。
- (10)白鳳十年(670) 観世音寺創建。『二中歴』 この頃、大宰府政庁Ⅱ期造営。出土瓦編年庚午年籍を全区規模で造籍。『日本書紀』
- (11)朱鳥元年(686) 前期難波宮が焼亡し、朱鳥に改元。火災跡の出土、『日本書紀』
このころから藤原京造営開始。藤原宮出土「干支木簡」
- (12)朱鳥九年(694) 12月に持統が藤原宮へ遷都。『日本書紀』
- (13)大化元年(695) 大化に改元。『二中歴』他。大宝元年(701)の王朝交代へと進む。



古田武彦先生

1926-2015

ご清聴、ありがとうございました

古田武彦

(2011年8月、『俾弥呼』刊行の頃に自宅近くの竹林にて)

多元的古代研究会・リモート研究会